

会議録（概要）

会議名称	第1回伊那市医療政策審議会
日 時	平成28年11月16日（水） 午後6時55分から午後8時5分まで
場 所	市役所 庁議室
出席者	<p>【委員】</p> <p>兼子敦彦委員、木下広志委員、小池正之委員、高橋陽子委員、廣岡明美委員、伊東大輔委員、黒河内文江委員、関浩二委員、山本博幸委員、飯島信子委員、小池浩史委員、前田久子委員、宮島良夫委員、屋良朝彦委員</p> <p>【理事者】 林 副市長</p> <p>【事務局】 城取保健福祉部長、三井健康推進課長、久保田健康推進課長補佐・診療所係長、林国保医療係長、山口予防係長、奥原国保医療係副主幹</p>
欠席者	松岡裕之委員

- 1 開 会 城取保健福祉部長
- 2 委嘱書交付 林副市長
- 3 あいさつ 林副市長

それぞれの委員の皆様には、お忙しい中、お寒い中お集まりいただいた。日頃、伊那市の地域医療推進にご尽力いただき、また、市の医療政策にご協力をいただき感謝申し上げます。この審議会は思ったより新しく平成22年に条例を制定、少子高齢化の時代を背景に、在宅介護等伊那市の医療施策について市長の諮問にご意見をいただきたく設置した。今、伊那市では、小中学生の医療は通院入院とも無料、今年の夏からは高校生の入院まで無料となった。審議会の皆様の意見をいただく中でここまで実現した。19市の中でも進んでいる方かと思う。高齢化が進み医療費の増大も懸念され、高齢者介護、給付等の問題が生じる。直営の4診療所、西箕輪・美和・長藤・新山の在り方についても過去に提言をいただいた。診療所の在り方等についても必要があれば市長より諮問させていただく。地域医療の課題等に助言提言をいただき市の医療施策に反映させていきたいのでご協力をお願いしたい。

- 4 自己紹介
- 5 正副会長の選任 会 長 前田久子委員（市議会）  
副会長 兼子敦彦委員（伊那市医師会）

6 会議事項（会長進行）

- (1) 医療政策審議会について
  - 事務局説明（健康推進課長）
  - 資料NO.1-1「伊那市医療審議会条例」、資料NO.1-2「医療政策審議会の経過」を基に説明（略）
  - 現状について、また今後の検討課題についてご意見をいただきたい。
- (2) 福祉医療費給付事業における支給対象者拡大について
  - 事務局説明（国保医療係長）

子どもの福祉医療について説明。資料 NO. 2-1「福祉医療給付事業の概要」により事業概要を説明（略）。

伊那市の福祉医療の対象はこれまで出生してから中学 3 年生までの通院入院医療費となっていた。今年の 8 月から新たに高校生に当たる 18 歳の 3 月までの入院にかかる医療費を対象とした。福祉医療は県から補助を受ける部分と市単独の部分がある。県の対象は（1）のとおり。支給額の 2 分の 1 について補助がある。市単独及び支給額については（2）のとおり（略）。

これまでの制度の経過について「福祉医療制度改正経過」により説明（略）。H20 年度までは県の補助要綱の対象までということで小学校入学までとしていた（略）。

県下市町村の実施状況について、資料 NO. 2-2「乳幼児医療給付事業の市町村実施状況」により説明。

今年 8 月現在の県内各市町村の子どもの福祉医療の状況をまとめたもの。上伊那 6 市町村が高校までの入院通院を対象としている。H27 までは県内各市のほとんどが中学生までだったが、今年 4 月から飯田市が高校生の入院通院に拡大、駒ヶ根市も 8 月より高校生の入院まで拡大している。今回の改正理由の一つは近隣市町村の状況による。入院までとしたのはコンビニ受診増加を懸念したため。

資料 NO. 2-3 について説明・・・上段 1 表は H26・27 の子どもの福祉医療費の伊那市実績。1 件あたりの窓口負担額について高校生は中学生と同程度として推計、H26 実績で年 1 万 767 件、1710 万、通院 1 件あたりは 1589 円と安価。入院は H26 中学生実績年 81 件 394 万円 1 件あたり約 5 万円、入院 1 件に助成することにより、ある程度家庭の負担軽減を図ることができるかと判断。子育て支援充実が求められている中、市民要望に応えられる必要最低限の拡大ということで今回は高校生入院までとした。本年度の支給見込みについては、「2 平成 28 年度予算（高校生入院分）」のとおり。8 月からこれまでの実績は 7 件、周知は市の HP と上伊那の医療機関へ通知した。入院が決まってから申請してもらい、高校終了 3 月までの有効期限の受給資格者証を発行する。

(会 長) 詳細に説明があったが質問意見等あればお願いしたい。

(委 員) 小中学生は全員、学校でスポーツ振興センターの学校災害共済に入っていると思うが、学校でのケガは対象になるのか。

(事務局) 学校災害共済の給付とは重複しない。学校災害共済は範囲が決まっているので、外れる分を対象としている。

(委 員) 制度について判っていない親御さんもいるので、十分周知してほしい。

(事務局) 学校教育課と連携し、案内文書を渡しているが引き続き連携して周知に努める。

(委 員) 窓口で先に払い還付を受けるので大変無駄である。見直しについての考えは。

(事務局) 窓口で一旦払い 後に給付する償還払いは県下統一の方法、理由の一つはコンビニ受診の抑制、もう一つは窓口無料にした場合、国庫支出金の減額措置があるため。これについては子育て支援策として、国が見直しを検討しており、年内に結論を出すと言っている。見直しの方向が出れば、県内で協議していくことにな

る。

(会 長)若い父母から依然根強く要望があるので国県に要望し続けてほしい。

(3) 西箕輪地区の医療体制と長藤・新山診療所の今後について

事務局説明 (久保田健康推進課長補佐・診療所係長)

国保西箕輪診療所の現状、診療体制、経営状況～公的医療機関誘致について、資料 NO. 3-1「西箕輪地区の医療体制について」に基づき説明。(略)厚生連との調整が進んでおり順調なら H29 年 4 月の着工可と聞いている。

長藤新山の今後について資料 NO. 3-2「診療所別診療・受診者数」、資料 N. 3-3「直営診療所・鍼灸治療所収支一覧表」に基づき説明。(略)長藤は週 3 日、月・水・金に診療しているが年々患者数が減少している。医師も数年後定年を迎えるので今後の方向を検討しなければならない時期を迎えている。新山は水曜日午後 1 時間のみ開院。現在の実患者数は 4 名であり、あり方を検討する時期になっている。

(会 長)診療所の問題について希望のある話と両極の説明だったが質問ご意見を。

(委 員)新しい西箕輪診療所は、厚生連とどういう条件になっているかもう少し詳しく知りたい。同様の例は両小野診療所かと思うが。

(事務局)予定地は伊那市の土地、両小野診療所は辰野塩尻の国保組合が運営していたが、厚生連の診療所を誘致した。土地は無償、建物は全額国保組合で負担補助したと聞いている。伊那市はそこまではできないと交渉しているところ。土地はいずれ購入してもらいたい、補助は 2 分の 1 以下との条件で交渉中であり、はっきりしたらお伝えしていく。

(委 員)早い平成 29 年 4 月着工の場合いつ完成するのか

(事務局)4 月だと秋にはできる。両小野も半年くらいで完成している。着工がもう少し遅ければ翌年 1 月頃になる。

(委 員)平成 29 年秋に完成した場合、今の 2 人の医師はどうなるのか。

(事務局)厚生連でどのように医師の配置をするか決まっていないが、希望があればお手伝いしていただくこともある。今後の話し合いの中で決まっていく。

(委 員)2 人の医師の身分は厚生連の職員になるのか。

(事務局)西箕輪の医師は非常勤なので一度退職していただくことになる。厚生連雇用なら移ることになる。長藤の医師は正規職員なので、定年までは勤務していただく中で、手伝いが可能か検討する。

(委 員)建設費用等の補助に伴う支出はいくら見込んでいるのか。市の土地を将来購入してもらいたい意向もある。市の財政と費用補助はどの程度考えているのか。

(事務局)費用補助に関する市の考え方ということかと思う。土地は市の用地を使ってもらうということだが、市民の財産であり厚生連に有償でひきとってもらう。運営が落ち着くまでの間は無償もあるか。交渉中である。両小野診療所は自治体が全額持ったが地域的特性、患者数のこともあり比較できない。事業費は全体で 5 億近くかかると言われている。市がどの程度補助できるか予算的なことになるので議会の了解をいただき決めていくことになる。

(委員) 方向としては良い。地域の皆さんの安心につながる。

(委員) 他の診療所について、遠くない将来、長藤・新山の医師が辞めるのは分かっていると思うがその後の長藤、新山をどのように考えているか。

(事務局) 医師は65歳定年、60歳を超えているのでここ数年で定年を迎える。長谷、高遠、新山については、東部地区全体の医療体制として考えていきたい。手始めに医療体制について率直に関係する医師と意見交換する場を設け、ご意見を聞きつつ検討していく。

#### (4) その他

(委員) 市には総合医が配置されているか。諏訪中央病院には1人配置されている。診療科をいくつも受診するため処方される薬が沢山になる。東高遠はバスがなく冬場等特に高齢者は困るので、総合医が在庁しているとありがたい。

(事務局) 総合医について不勉強で申し訳ない。医師会長をご存知であればお願いしたい。

(委員) 伊那市にはいない。関連して懸念されることは、高遠地区の医師の高齢化で、医師会でも話題になっている。10年20年後の高遠長谷地区はどうなるのか。地域に医療がないと地域が廃れてしまうが、民間では経営を考えないといけない。

(事務局) 東部地区の医療体制について、近々関係の医師と意見交換を行う予定。診療所の問題も含めて10年20年後の事を考えていきたい。

(委員) 高遠と長谷を一緒に考えて1人総合医がいるとありがたい。

(委員) 自治医科大学が本来担うべきことかと思うが現在はどうなっているのか。卒業しても街場に勤務する医者が多いと聞く。若い人は都会志向。自治医大出身者でも僻地に開業している人はあまりいない。

(委員) 年を重ねてきているのでこれからを考えると心細い。中病までタクシーで片道5,000円以上かかる。5年10年後の対策として伊那地域で医師を育てる必要があるのではないか。医師会も考えてほしい。

(事務局) 市で医師の育成は設計しにくい。県や信大などで奨学金を設けているので、それを利用していただければありがたい。総合医等は市の課題として考えていきたい。

(会長) 地域包括ケアに取り組む上でも、僻地医療に医師が定着するか、今後の大きな課題である。

#### 7 その他

(事務局) 次回の日程は未定。任期の中で諮問できる状況が整ったら召集させていただく。

(会長) 閉会とする。診療所のあり方等は市の大きな課題、次回までに伊那市の医療政策について考えを深め持ち寄っていただきたい。